

NPO 北海道思春期
教育ネットワーク
夏季セミナー

Gift for you

8月20日 (土)

13:40~15:00

免疫のしくみ

札幌医科大学名誉教授

乗安 整而 氏

15:10~16:30

思春期とくすり教育

～スポーツファーマシスト

の視点より～

北海道大学病院 薬剤部薬剤師

川岸 亨 氏



1年ぶりのご無沙汰ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
未曾有の東日本大震災から2ヶ月が過ぎましたが、まだまだ困難な状況が続き、心痛みます。

さて、本セミナーも早いもので8年目を迎えました。
「ご案内」でも触れましたが、セミナーの内容を検討する際、皆様
の声をもとにし、社会の変化に適應する内容のプログラムを目指
し、世話人で話し合ってきました。

その結果今回の初日は、生体として人を守るメカニズム「免
疫」及び「くすり」について、2日目は社会的存在として人を見つ
め、今やビジネスのみならず様々なシーンで活用できるマネジメン
トについてじっくり学び、考えていこうと思います。参加される皆
様にとって、価値ある学び、情報交換、交友を深める2日間になる
ことを希望します。

魅力あふれる講師陣

乗安 整而 氏

札幌医科大学名誉教諭、医学博士、体育学博士である乗安氏のご専門は解剖学・形質人類学です。東京教育大学大学院体育学研究科修士（旭川北高卒）、札幌医科大学保健医療学部教授を経て、現在も大病を克服しながら複数の講義を持って活躍中です。

今回のご講演の解説（内容）について、下記のメッセージをいただいております。素晴らしい人体のメカニズムについて、もう一度じっくり学びましょう。

「私たちの体には、異物に抵抗する防御機構が備わっています。これを免疫系といいます。免疫系は外部から体に進入する病原菌や毒物ばかりでなく、体内にできる異常な細胞なども破壊して体を守ります。それには自律神経系や白血球、体温などが関わります。そのメカニズムが理解できれば病気の予防も可能です。」



川岸 亨 氏

近年、健康増進や美容のためのサプリメントおよびセルフメディケーションの推進により風邪薬などの大衆薬が入手しやすくなり、大人も子どもも使用頻度が高まっていますが、成長過程にある青少年は薬物の影響を受けやすく、使用法を誤ると健康を害する場合もあるばかりでなく、無意識にドーピングに抵触してしまう恐れがあります。

フィギュアスケートにみられるように、アスリートと呼ばれる競技者が低年齢化している中で例えばドーピングについても、私たちはどれだけの知識をもっているのでしょうか？日本では、薬剤師による「公認スポーツファーマシスト」制度が日本アンチドーピング機構と日本薬剤師会の元で活動を行っており、スポーツ選手や指導者への情報提供を行っています。さらに学校教育の現場では、薬物に関する正しい知識について教職員および学校薬剤師と連携をとって啓蒙活動を行っています。

今回は、思春期に関わる教育者の方々から知っていただきたい正確な情報をスポーツファーマシストの立場から時間の許す限りお話させていただきます。



8月21日 (日)

9:30~12:00

マネジメントとは？

基礎的な事柄を共有するために
図でみるマネジメント

13:30~15:30

グループワーキング

～行動のミッションづくり～

株式会社クオリアット 代表取締役

森 哲子 氏



森 哲子 氏

コミュニケーションデザイン/コーディネーターとして森氏は、何気ない日常での出会い・発見・感動が次につながる何かを創り出すという考えから、イベントや広告にユニークな活動、コミュニケーションに独特の境地を拓きました。北海道まちづくり協会・運営幹事、NPO法人北の映像ミュージアム・理事、NPO法人支笏湖復興の森づくりの会・理事フォーラム理事他多くのことに携わっています。

前半はマネジメント理論を学びます。マネジメントという言葉に耳にすると、ビジネス環境などで組織から管理される、あるいはチームを管理するといったイメージを抱きがちですが、マネジメントの重要なポイントは自己評価を行うことにあると思います。社会やチームの中で自分ができること、やるべきこと、そして、そこにどう自分は近づいていけるのか、また近づくためにやるべきことは何か。自分が社会に貢献できる社会の一員であることを、思春期に感じることは、その後のライフスタイルの選択肢に大きな影響を与えていると思います。

しかし残念ながら、自分の思いだけで社会とのアクセスがうまくいく確率は高くありません。何故なら、社会の外的変化の影響(ストレス)の方が圧倒的に大きいからです。マネジメント思考は、外的変化のストレスと向き合っていく心(精神面)の体力づくりに役立つ方法のひとつと考えます。

そして、後半は演習をとおりマネジメントの実践的ステップ、行動本意のミッションをつくりましょう。

マネジメントの目的は、目標の成果を得て(知って)、自己評価をすることにあります。成果は行動から得られるもの、そのためには、よりシンプルで有効な行動のミッションづくりが大切です。今回は、教育現場での「自分の大事な思い」「自分たちの持てる能力や資源(リソース)」「社会との接点(ニーズや機会)」から『自分たちの行動のミッション』をつくり、行動の道筋を見いだしていく、グループワーキングを行っていただきます。

3・11の東日本大震災で日本は、太平洋戦争に次ぐ大ピンチを迎えています。私も透析患者の救済を通じてできる限りに支援を続けています。日本中が心をつなげて元気を取り戻す日を心に描いて頑張ろうではありませんか。

日本は、経済の高度成長に続くグローバル社会への大変化の中で、外的な条件が急変しているにも関わらず適応しきれずに漂流を続けています。大震災が、そんな日本に追い打ちをかけ、さらに大津波と原発の重大事故がこれでもかこれでもかと難題を押し付けています。

一方で、少子高齢化は現実となり、産業の空洞化は、若者の就職難を一段と厳しくしています。しかも、財政難。これから育って行く子供たちが身につけるべき能力も従来とはかなり違ったものが要求されるはずで。

世話人会でも多くの議論をしてきました。今回は、現代的なテーマにチャレンジしてみようということで、免疫/薬/マネジメントという企画をしてみました。その心は、「自分のコントロールであり社会への適合」です。二日目の午後のグループワークは、全く新しい試みになると思います。自分自身と社会との折り合いをつけて「具体的に行動する」為に一歩然してみようではありませんか。期待してください。(高須)

人の強みを生かし
弱みを無意味に

直道

NPO北海道思春期教育ネットワーク世話人

顧問：藤井 美穂 (カレスサッポロ時計台記念病院女性総合診療センター長)

高須喜久男 (札幌学院大学地域社会マネジメント研究科客員教授)

代表：杉山 厚子 (北海道公立大学独立法人札幌医科大学保健医療学部准教授)

丸岡 里香 (北翔大学人間福祉学部福祉心理学科准教授)

野口 直美 (北海道旭川東栄高等学校養護教諭)

事務局員：水田 千尋 (看護師)